제39호 1907. 12. 25.

京城新報

●新聞料 ▲一部 ▲一ヶ月 ▲三ヶ月前金 ▲六ヶ月前金 ▲郵税
●廣告料 ▲九號活字十九字詰一行金三十錢 ▲四號活字十四字詰一行金四十五錢
●陰曆 十一月廿一日
發行兼編輯人 印刷人 山下英爾
京城西署内小門通
發行所 京城新報社 電話六六三

覆面を脱ける日本

本篇は英人マッシー氏の所述にして「貿易」より轉載したるもの也

▲内外海運業の比較　太平洋に於ての白人海運業は日本人に對して自ら一籌を輸せざるを得ず、蓋し白人にありては其水夫を使用するに一日少くとも二志を要すべきに反し日本人は六片以下にて事足り、船長の如きも日本人は白人の最低給料の十分一を得れば滿足するの實況なるを以て、此他の諸費も之に準じて推測するを得べし、是に於てか在清英國商船會社は英人は役員にのみ留めて水夫は凡て支那人を使用することゝなせるが、日本人は此上政府の保護金を得る特點あるを以て、白人に比して遙に利益ある位地に立つものなり。

▲日本の保護制度　此等の補助金は二種の形式より成れり、普通助成金制度は千噸以上の汽船にして一時間十海里を下らざる速力を有するものに限り一噸一志を給與し五百噸を増す毎に一割一海里を増す毎に二割を増給するに在り、其外國製のものにして一八九九年十月一日以後に登録せられたるものは以上の半額を支給すべし、此外政府は時として特別の任務の爲めに特別の補助を與ふる事あり、此等助成金の總額は一年六十萬磅に上り主として日本郵船及び日本商船會社の所得に歸せり、而かも凡て日本に於ける大汽船會社は事實上に於て、政府事業の一部を爲すに外ならずして、公文書中に政府は某會社に向て某々航路を開くべし、又は其の噸數を増加すべしなどを命令すとの文字を見ること少からざるのみか、會社の株式は多く政府高官の一味に依て所有せらるゝなり。

▲日本の對印度策　日本政府が某方面に向て貿易を進めむと欲する場合には頗る秩序立ちたる方法を以て遂行しつゝあり、例へば日本政府の印度に向て木綿市場を進撃せむとするや、先づ代理官を派して周到なる販路の視察を爲さしめ、印度人の需要する各種商品の見本を齎し歸らしめ、之を全國の商品陳列館若くは工場に配布して製造家をして似よりたる品物を製造せしむ、斯くて又一方には印度航路に向て保護金を與ふるなり、是れ素より合理の事なり、されど之に伴ひ來る各種の事情は英人としては稍興味の感なき能はず、日本政治家の印度に旅行する者頗る少からず、或は新日本の樹立を説き或は他の亞細亞人亦日本の模範に倣ふ能はざるやと論ず、或は單に佛教徒として遍歷し或は基督教信者として宗教の狀態を研究するあり、而かも時に或は露骨にも排英說を主張し、印度土人に向て其の王國を再建し其の獨立を得よと叫ぶ者亦少からず、日本基督教徒の領袖原田助氏の言說に對し、ジャパンメールの論爭したるが如き其一例にして、大隈伯の主宰の下にある日印協會の行動の如き亦注意すべきものゝ一也、印度人の煽動と勤惰とが日本商標の進行と何等の關係あるや否やは之を知らざるも、此等は同時に相俟て日本の貿易を進め、日本商品の販途の擴大せんとしつゝあるなり

▲日本商船の活動　日本の商船數は戰前七十三万噸に過ぎざりしもの戰後に及びては百二十萬噸に達し、今や更に之を擴張せしめむとし昨年來種々の計畫を爲し太平洋上に於て英獨の會社と大競爭を試みむとしつゝあり、日本汽船會社中最も有力なる日本郵船會社は大膽にもスエズ以東の外國汽船會社の跋扈を抑止せざるべからずと言明せる程なるが、横濱上海航路に關してバッターフキールド、スワイヤー及びジャーデンマデソン兩會社との間に開始せられ、其餘爆上海より盤谷に及びたり、之と同時に長江に於ても競爭開始せられたり、由來長江一帶は英國の貿易勢力範圍に屬し、十年前に長江を航行せる汽船會社四社中三社は英國の有にして他は清商のものなりしが、日本郵船は一九〇二年に於てマックベインなる英國の會社を買收し、次で大阪商船も此所に航路を擴張したり。

▲長江の商船戰爭　長江に於ける大港は漢口にして清國將來の大商業市たるべし、マックベイン會社は漢口に於て英國居留地内に好良なる地域を有したるを以て日本郵船は其の地域を使用し得べしと信じたりしに他の英國會社は之に反對し英國の國旗を揭ぐるものにわらざれば英國界に繫船するを許さずとし英國政府亦之に贊同したり、是に於て日本人は痛く之を憤激し同會社近藤廉平氏は昨年十一月の總會に於て「英國は日本と同盟國なるも商戰上に於ては敵も味方もなし、吾人の本件に對する將來は幾多の困難に遭遇すべきも吾人は一意會社の目的を達するの外なし」と說けり、長江航路に於てバッターフキールド、スワイヤー及びジャーデンマデソンの兩社は共に上海漢口間に五隻を浮べ、日本は上海漢口間に六隻、東京漢口間に三隻、大阪漢口間に三隻を有せり、此他にも英清兩國其他の船舶少からざるも、日本人は政治上あらゆる手段を取りて其の勢力を扶植し併せて貨物の搶集に努めつゝあり、若し彼等に依りて英國船舶の長江一帶より驅逐せらるゝが如きことあらむか英國の權勢に及ぼす影響一方ならざるべし、勿論長江所在の英國會社は其基礎鞏固にして尋常の競爭者に向ては容易に屈すべしとも思はれざるも、而かも如何なる商業王の集團も一政府に向ての戰は自ら躊躇せざるを得ず、蓋し目下長江に於て戰爭を開きつゝあるは一二汽船會社にあらずして實に日本政府なる也。

▲日本政府の眞意　試に一九〇七年日本政府が衆議院に提出せる豫算を見るに上海、北清及び長江航海船に向て助成金及び特許權を附與するの新案を企圖せり、此助成年限は本年十月より一九一二年三月迄にして上海航路には二千七百四十噸以上十四海里以上の汽船三隻を備へ、北清、北海道其他の航路に對しても詳細の條件あり、長江航路に向つては政府は航海數・寄港地、時間表等を定むるの權を得旅客及び貨物の賃銀は政府の認可を經るを要すとす、日本政府眞意の在る所蓋し知るべきのみ。

▲英國航權の侵略　日本航海業の進歩と共に彼等が曾て英人の手にありし貿易を侵略し來れるは素より當然のみ、厦門駐在米國領事ジョージ、アンダーソン氏は昨年下部清國沿岸貿易の事情を報告せる中、此の事に說及して英國の船舶噸數年々の減少と日本航路の增加とは日本政府助成金の發達と正比例すとて下部清國沿岸に於ける英國汽船の衰態を指摘したり、要するに吾人は太平洋に於て堪能にして巨額の資本を有し老熟せる組織の下に奮闘しつゝある英國商人を見ると同時に英國人より借入れたる資本を以て英國の貿易を毀損せんとする一政府あるを見る、されば東洋にある一英商が「英國が日本に與へたる公債は東洋に住る英商の喉を斬らんが爲めに、小刀を日本に授くると等し」と苦言する者あるを見たるも殆ど無理とのみ云ふ能はざるなり。

間嶋問題と柳に風

間島問題と云へば近頃音も沙汰も無い樣だが全体何う仕たんだ、不甲斐ないとも腰拔けども實に申上げやうはない、統監府の遣口は毎度もあれで困る、幽靈ぢやアあるまいし徒らに其聲のみ大にして、肝甚の腰から下はいつも朧り見態樣に消ねて無くなつて了う、聞けば太師殿下には硬派中の硬派で鳴らされる相なが、考ねても見るが可い、男子が一旦羽織袴で正式に表門から乘込んだ以上木戸を突かれてへい左樣ならと今更ら無下で引退られた義理か、夫れを何うだ、肝甚の所で腰を拔かして了つて柳に風、雲行次第で此方は如何樣にもと出られた日には、誰人かつて附上がり度く成つて來るのが人情だ、だから最初から云はぬ事ッちやアない、れ止しなさい、官員樣やサーベルでは行けませんから、其處は浪人に任かしてれ置きなさい、賄賂も攫まして眠つと見て居る中には乃が此方の物に成りますと、幾々も云つて置くものを、失敬な申分かは知らぬが、何うも此邊の手心か呑込めぬものと見ねて、間島のカの字も覗いた事の無い癖に突如喧嘩を吹掛けて置いて、今日になつて何うも困つた事になつたよで濟まされて堪るものか、夫なら夫で、そこは男子の意氣地持掛けたからには飽く迄も踏ん張つて見るとか云ねば格別、ぐにやりッと中折がしてれ仕舞には癩病宜ろしくちやア、いかに敵手だからつて氣を入れやうにも入れ場が無ぢやアないか、と云つて今更ら出直す譯にも行くまいから、此分で多んさ突込む所まで突込んで置いて、取換鏡も惡くは有るまいが、夫では折角彼迄に爲つた中野が可愛想だ、何爲せ太師殿下のれ言葉では無いが何うも六ヶ敷く成つたよ、又最初の出方も出方でないか、

時に貴方のれ住居は何年前の事かは存せぬが、何んでも祖父の時代にれ貸し申した者だそうで、現に手許に確乎とした證文も有れば立退督促狀も何通となく有れば、なりとも御覽に入れませうが、夫も實は年末に際して大掃除の際、チラと世話人の目に入りました樣な次第で、成程貴公の方も節季に押詰りまして引移りは嘸かし御迷惑でも有りませうなれど、私方も御存知の通り家内は殖ねます、夫に近頃は又頓んだ厄介者を引請けましたので、今の所では手狹でもムいますし、旁々致しまして、イヤ貴公が頑ねて左樣有仰れば申上げますが一体此方から申さなくとも貴公の方かられ立退き有つて可然かと考ねまするが、では、何人か平い左樣ならばと、手を突いて二つ返事に往苒延引に及びましてと、何んとも、惡からず、すれば之を御檢分を、疊建具迄揃ねて、

一、間島

右空屋同然に心得永年住荒し候處突然立退の御催促に及び何共恐縮に存候立退は態々の前なれば別段不服も御座なく直樣にも引越し候に付御檢分被下度是は又氣付迄に申殘候御議取の上れ引移なく是迄通り空屋として捨置かるゝに於ては自然無精濃なこの何時住込み候やも不測、且は失火等の虞も有之何分隣家の事さて迷惑無此上事に御座候間今後共宜敷御面當相願度候也

と素直に引取る者が有らうか、立退料を出してさへ容易には動かぬ、この世智辛い世の中ではないか何々。

賊を藥師庵に討つ

全羅道光州宮川警視の報によれば暴徒約百五十名は去る九日長城郡邑東面に於て同郡郵便受取所長南部龍五郎の一行を襲撃し同人を殺戮し尙光州より興德に赴かんとする守備隊下士以下六名を同所に要撃し交戰約二時間暴徒は梧桐申背面の方向白羊山に向け敗走せり此の急報に依り光州守備隊は將校以下十五名を急派し十一日午前十時追擊に着手し白羊山に向け三方面より前進す而して我一隊は同山藥師庵を距る約八百米突の地點に達するや同庵に立籠りたる暴徒は突然急射擊を開始し應戰數時間彼は天險に依り頑強に防守す我は地形の不利を侵し更に約二百米突前進し日沒後は緩徐なる銃火を交へつゝ露營し翌十二日午前七時三十分に至り突擊に移り暴徒の根據地たる同庵を占領したり暴徒は死体三軀を遺棄し逃走せり現場の模樣に依れば負傷者十名を下らざるものと認む

鹵獲品は乘馬及銃器八、彈丸、火藥若干等なり而して暴徒等逃走後庵の内外を搜索せしに僧侶の蹤影なく同庵を前方に距る約四百米突の白蓮庵内に尼一名銃丸に殪れたるを發見す死後二日間位を經過したるものゝ如し次で暴徒は潭陽郡方面に逃走の形跡あるを認め十三日之を追跡せしに南蒲里附近に於て四散したるものゝ如し

別項記載郵便取扱所長南部龍五郎殺害の狀況を取調ぶるに同人は所用を帶び光州より歸途其の使役人（韓人）一名郵便遞送人四名と前記場所に於て襲擊を受け同地某酒幕附近にて捕はれ遂に殺戮されたるものにして死體は黑焦となり何人たるや判明せず死體は之を火葬に附し遺骨は同所郵便取扱所に於て保管の筈なり

十一月中 京城物價表（續）

（京城日本人商業會議所調）

洋紙四六判ゴロス	磅	一三三	一三五
神戸紙	同	一〇〇	〇九五
杉大角（尺方角）	本	三、〇〇〇	一二、八〇〇
松大角（同）	同	八、五〇〇	一〇、五〇〇
檜大角（同）	同	二〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇
杉五寸角	同	二、〇〇〇	一、八〇〇
杉四分板	坪	一、四〇〇	一、一七〇
同六分板	同	一、七〇〇	一、三八〇
松六分板	同	一、五五〇	一、三三〇
杉四分（無節）	同	一、九〇〇	一、七〇〇
杉二間（大ヌキ）	枚	三〇〇	二八〇
同（中ヌキ）	同	二八〇	二四〇
同（小ヌキ）	同	二五〇	二三〇
松二間（垂木）	本	三〇〇	二五〇
同丈（同）	同	二三〇	一八〇
同間（同）	同	一三〇	一一〇
ホワイトジンク油（廿八磅入）	罐	六、五〇〇	六、五〇〇
ハバック會社ボイル油（五石入）	同	九、八〇〇	九、八〇〇
ウヰルキンソン會社（同）	同	品物	九、〇〇〇

小說 紋のみだれ（三十六）

永井櫻園



芝區櫻川町の割烹店春川樓の二階座敷で、鼎座に席を構へて酒酌み交しつゝあるは、土木請負業の武山八五郎と、清糸、清之助の三人である。肱きまで耀き渡る電燈に對ひたる八五郎は、例の鋭い目を睜つて

「電車の中の寒が辛と溫まつて來た。何でも斯う云ふ寒い晚には溫い物で酒と云ふ奴が何より結構だ、一つ師匠に獻上しやう。」

と、杯を差す。清之助は其と見て酌をする

八五郎は火鉢に手を翳しながら

「しかし、今晚もまた駄目かと思つて居つた、能く一緒に來て呉れたから、何でも清之助さんが嗜好な物を御馳走する、遠慮なく云ふが可い。」

「れやく、私に散々骨を折らして置て、私は眺めて居るんですか、はゝゝ。」

と、高く笑つて、ハンケチで口を拭ふ。

「こりや恐れ入谷の鬼子母神だ、れ師匠は言ふまでもない御好み次第さ。異箇此間から骨を折つて貰つたからね。」

「然うですとも、並大体な骨折ぢやありません、今夜だつて然うです、中貫の女中が手招で密々話してるから、こりや必然れ客から頼まれて口でも掛けに來たなと勘付いたから、早速聞き糺して見れば案の條ふ子てから何處かへ一緒にと云ふ譯なんですもの、其方も大變贔負にして下さる客で、退引ならん場合に陷つたので、お供すると云つて居つたのを、私が無理を云つて其方を程宜く斷らして、到頭此方に連れて來たんですもの、異齒骨が折れましたよ。」

「れ師匠の骨折は私も能く承知してるよ、其のれ禮には御馳走ばかりぢや愛嬌が足りないから、何か一つ出さうよ。」

と云ひつゝトンビの衣兜を探つて、十圓紙幣一束掴み出し

「少ないけれど、これで半襟の一つも買つて貰はう。」

と、十圓紙幣一枚を與へ、更に一枚を清之助に與へて

「れ前さんも、外へ行くのを斷つてまで來て貰つたんだから、御祝儀の印だよ。」

清糸はホク／＼歡びながら

「まあ、斯麼に御祝儀なんか頂いては相濟みませんのね、だけれど折角ですから御遠慮なく頂戴致します。清之助さんも頂いて置きなさい。」

と、清之助にも勸め、自分は押戴いて帶の間に納めて了つた。清之助はあまりに金子が多いので、納めた後に何か言出さうと、躊躇ふやうな事はあるまいか、と兎つ追つ躊躇む容子もない。

「折角旦那が下すッたんだ、早く頂いて置きなよ。」

再び清糸に言はれたので、人を呼んで祝儀に呉れた金子を攔いて、何の不思儀があるべと思ひ直して

「どうも有難う、では遠慮なく頂きますわ。」

と、頭を下げて禮を述べ、其まゝこれも帶の間に納めて了つた。

それから後は、何が宜からうと、山海の珍味を所狹きまで取寄せて十二時過まで大陽氣に打騷ぎ、其晚は一同が愉快に遊んで、各々自々家路を辿つて往つた。

京城新報

暴徒の眞相に就て

其勢力よりせば數百の賊徒は、我軍十數を以て容易く驅逐するに足る、其數よりせば韓國民の一小部分たるのみ、而して暴徒以來月を累ぬる六ヶ月、我兵を動かす約一ヶ師團、其出沒する區域は東南より起りて西北に及び、今や樞要なる市港、並に縱斷鐵道線を除くの外は、危險、不安、無政府の狀態なり。

玆に至りて何人も知らんと欲するは暴徒の眞相也、何人も希ふ處は暴徒の撲滅也、然らざれば帝國の殖民發展は絕對に不可能にして、韓國の治政は得て望む可らず、之を一言すれば暴徒を鎭靜せしめずして官制の改革を行ひ、豫算の編製を作爲し、商工業の經營を謀らんとするは、只だ形式の政事なるのみ、空文的政略なるのみ。

蓋し暴徒の由來するや、先づ原州軍隊の解散を以て動機と爲す、爾來各所に蜂起するを見るに、其團体、其系統、其目的、其所作異なる處ありと雖も、之を要するに彼等は帝國に惡戯を爲すの目的に於て一致せり、帝國々民に對して惡戯を試み、其弱點に乘じて慘禍を行ひ、其間隙に乘じて帝國の商工業を破壞するの目的を有するに於ては一致せり、彼等は帝國をして韓半島より其保護權を放擲せしむる程の反抗的勢力と愛國心によりて起れるに非ずして、帝國をして現狀の政策を一變し、讓步し、溫和ならしめんと欲するの要求に於て一致せり。

此要求は何人が號令し、指揮し、敎示したる乎、斯る命令を發したるものは其君主に非ずして誰ぞや、恐らく韓宮廷は紙片を以て、若しくは玉璽を以て布令したるに非ずと雖も、韓國民中に於て之を了解して以て武裝せる賊徒に加入したるに至れるに非ざる無き乎。

今や兩國皇室に於かせられては和親の盃を擧げて親善の意を表せらる、前後未曾有の大機會に際して尙且つ暴徒の鎭靜せざるを見て、吾人は韓政府の無能無責任に驚かざるを得ず、又此國家を保護せる帝國政府が其本を消めずして枝葉と形式に汲々たるに驚かざるを得ず。

東京電報

東洋協會の歡迎會

東洋協會の韓國皇太子同特派大使伊藤統監其の他韓客招待會は今日三井俱樂部に於て開催され桂會頭の歡迎演說伊藤統監の祝辭宋農相の演說あり來會者は岩倉公長崎式部官村田少將後藤滿洲鐵道會社總裁及び各大臣並に大隈伯板垣伯其他二百餘名なりき

▲韓太子の午餐會

韓國皇太子は明後日午餐會を開かれ宮內官を招かせられ尙同夜は我が皇太子殿下及各大臣其の他を招待し晩餐會を催さる

▲李大使其他の入會

李載崑氏は伊藤公の推薦にて東洋協會韓國支會長となり李宮內大臣宋農相李俊鎔嚴柱益其の他來朝の韓官十五名は同會に入りたり

▲陸軍始觀兵式指揮官

觀兵式諸兵指揮官は河村謙明に參謀長は大島謙一に仰付らる(以上廿三日午後發)

雜報

鑛業權及移民業の取消

地方暴徒の騷擾を口實として現に相當の鑛業を爲さず又鑛區及鑛產税を上納せざる者及移民業者にして同樣の口實により保證金を納付せざる者に對して夫々認可を取消すべしと某當局者は語れりと傳へらる

●長谷川大將の參內 一昨日長谷川軍司令長官には豫ての御下賜金御禮の爲め副官大藤與一通譯官立花厚介の兩氏を帶同午後三時七分參內同三時十五分退闕せり

●太皇帝宣諭使を犒ふ 各宣諭使が地方に於て極めて不都合なる行動を爲したることは已に世人の知るところなるが之等宣諭使中の四人は去る廿一日太皇帝に夫々地方暴徒の狀況を復命せりと云ふが果して如何なる事を復命せしにや

歲晩の帝國議會

第廿四帝國議會は今廿五日を以て召集せられ例に依て部長理事を定め兩院成立の通牒を交換して散會すべし、開院式は多分廿八日と決すべく衆議院は同日直に勅語奉答文を議定して休會の決議を爲し、貴族院は翌日午前第一日程に就き開議、奉答文議了の上全院委員長及常任委員を互選して休會を議決するなるべし

●韓國大使の謁見 韓國特派大使完興君李載冕氏は隨員永宣君李俊鎔其の他諸氏を從へ伊藤統監同伴十九日午前十一時五十分宮中に參內途中儀仗として近衞騎兵半小隊を附せられ警部四騎前後を警衞し御車寄には式部官出迎へ控所に於て田中宮內大臣、林外務大臣、戶田式部長、伊藤同次長等接見戶田式部長の誘導に依り鳳凰間に進み伊藤統監、德大寺侍從長、田中宮內大臣、林外務大臣、岡澤侍從武官長等侍立の上天皇陛下に謁見親しく韓國皇帝の御親書を捧呈し優渥なる御諚を拜せり右終りて香川皇后宮大夫の誘導に依り桐間に進み皇后陛下に謁見引續き天皇陛下は豐明殿に臨御依仁親王、菊麿王兩殿下を宮中の午餐に召され左の諸氏に御陪食仰付られたり

特派大使完興君李載冕、隨員永宣君李俊鎔、奎章閣提學趙漢國、承寧府侍從李恒九、從二品李達鎔、韓國內閣總理大臣秘書官上部正己、伊藤統監、德大寺侍從長、田中宮內大臣、林外務大臣、岡澤侍從武官長、花房宮內次官、渡邊內藏頭、戶田式部長、長崎宮中顧問官、伊藤式部次長、山內外事課長、村田陸軍少將、古谷、國分兩秘書官、小山技師、高崎男爵、酒井式部官

李宮相の奏電

一昨二十三日午後九時二十分東京發李允用氏より宮內府へ左の電報ありたり

兩闕御安寧あらせらるるや殿下は昨日大磯伊藤太師の別莊にて非常なる御待遇を受け夕刻御無事御歸京あらせられたり本日は天皇陛下の御允許に依り濱離宮に於て鴨獵及び魚釣遊ばされたり右執奏を乞ふ

●參與官會議 昨日午後統監官邸に於て參與官會議例會を開會せり

●美術館建設の議 韓廷にては帝室所屬として美術館を建設せんとの議あり遠からず發表を見るべし吾人は一日も速かに建設せられて世に稗益を與へんことを望むものなり

●興工團 趙義淵、俞吉濬、李址鎔其他の徒發起人となりて上名の如き團体を作るべしと云ふ

●尹甲炳 昨年八月某の命を受け宋秉畯を唆かして終身流刑囚李世植の特赦運動を爲さしめたりと云はるゝ尹甲炳は咸鏡北道觀察使に任せられたり變れば變るものなり

●柳赫魯 故金玉均氏の幕下として同氏に從て永く本邦に亡命したる柳赫魯は平安北道觀察使に任せられたり此人奇特にも昨年東京青山に於て金氏十三回忌の法事を行ひたり

●李軍相の落馬 軍部大臣李秉武氏は再昨日午前七時頃中樞院顧問官朴齊純氏を訪問せんと乘馬にて花開洞に至るの途上人力車の疾驅し來るに會ひ氏の乘馬驚きし爲め馬上より轉落して微傷を負ひたりと

●郡守運動收賄 韓大臣にして近來郡守運動を引受け盛に收賄を爲し居る者ありと傳へらるゝ內部當局者知らるゝや否

仁釜穀物商組合

仁川及釜山に於ては年々穀物輸出額增加しつゝあるが兩地輸出商の機關として設立されたる團体の內容を揭ぐれば左の如し

釜山

▲釜山穀物商組合

組合員が韓人より穀物類を買入れたるとき

一、甲種積立金(組合員各自に屬す但組合存立期間制戾をなさず)

一但(五斗標準)につき 金五錢

一、乙種積立金(組合經費に充て殘餘は一ヶ年每に計算し甲種積立金に組入る)

一但(同上)に付 金一錢

▲穀物輸出商組合

組合員が海外へ穀物を輸出するとき

一、甲種積立金(穀物商組合に同じ)

一但(五斗標準)に付 金五錢

一、乙種積立金(穀物商組合に同じ)

一但(同上)に付 金一錢

尙外に韓人問屋組合に於ても韓人より日本商人に對し穀物賣込の際其賣主より口錢を取り別に組合へ積立金をなし以て前述日本人側の轍に倣ふ

▲仁川穀物協會

同會は明治三十六年七月設立に係り會員は三十四名とす協會員は韓人より買收する石數に對し一石十錢積立金をなし其內より韓人仲買口錢三錢を支拂ひ殘金は經費を引去り積立金とし家屋什器の消却をなす役員事務員の賞與金を扣除したる後石數に應じて割戾を爲す此割戾は每年半季計算とす

協會一ヶ年經費 約三千二百圓

役員は在任期一ヶ年にして會長奧田貞次郎副會長田中佐七郎外評議員檢査役五名とす

▲穀物商輸出組合

一、卅五年十月の設立にして組合員數は仁川輸出商一般を網羅す

一、輸出者より石十錢を徵收し一ヶ年勘定にして金高の五分乃ち百圓につき五圓を引去り公共費に充つる爲め積立金とし餘は總て割戾となす

一、組合の經費は一ヶ年凡七百圓位

一、役員は會長副會長外一名外に評議員五名とし任期を三ヶ年とす

南滿地方の郵便取扱法

郵便局の設置なき南滿各地に於ける郵便物取扱に關しては今迄一般に尠少からざる不便を感じゐたるが今回滿鐵會社にては是等郵便物の取扱に關し關東都督府郵便電信局と協定し各驛の驛長をして郵便局の設置なき地方一切の郵便物を各停車場に於て取扱はしむる事と爲す由なるが其驛名は臭水子、南關嶺、三十里堡、得利寺、萬家嶺、湯崗子、鞍山站、張臺子、虎石臺、新臺子、雙廟子、郭家店、范家屯、五龍背、湯山城、高麗門、鷄冠山、二道溝、秋木莊、連山關、橋頭、孟家堡、石橋子、陳相屯、渾河堡等にして其中特に郵便件數の多數なるべしと認めらるゝ臭水子、南關嶺、三十里堡、得利寺、萬家嶺、湯崗子、鞍山站、虎石臺、新臺子、雙廟子、郭家店、范家屯、石橋子、孟家堡、連山關、橋頭、鷄冠山、秋木莊の各驛には郵便函を設け、列車出發時刻十分前に開函して取集め又郵便函の設置なき停車場にては驛員中の郵便係員之を受取り置き一定の場所に保管爲し又到着の郵便物は受取人の氏名を待合所內の見易き位置に揭示し置き三十日以內に受取人あらざる時は其事故を調査して普通郵便物と同樣に發信者に返付す尙此方法により小包、爲替の如きも普通郵便條例により郵便局と同樣に取扱ふ可く來春一月十六日より實施の計畫なりと聞く

暴徒討伐隊賞詞

今回暴徒討伐に付左の如く賞詞せられたり

步兵第五十一聯隊第九中隊

右は明治四十年八月一日韓國軍隊解散に當り京城南大門內侍衞步兵第一聯隊第一大隊及第二聯隊第一大隊の相呼應して暴動を起すや之が鎭壓に任ぜられ直ちに工兵將校以下下士十一名と共に先づ第二聯隊第一大隊兵營に向ふや叛兵は我が狹隘なる地區を前進するを機とし猛烈なる射擊を加ふに係らず勇往邁進し忽ち兵營內庭に突入す此時彼我の距離十數米にして叛兵は窓牖より猛射し中隊長梶原義久曹長平野正次郎等戰死し少尉藤江伊三太郎特務曹長藤田耕作以下十餘名の負傷を出せるに拘らず愈勇戰健鬪遂に突擊をして全く該兵營を占領せり之が爲め該兵營なる第一聯隊第一大隊叛兵も延て潰亂降服するに至りしは其功積偉大にして實に他の模範と爲すに足る依て賞詞を與ふ

步兵第五十一聯隊第二中隊

右は曩に春川守備隊として附近各地の暴徒を討伐し就中本年九月七日洪川に於て約七百の賊四方より包圍攻擊をなせしに方り寡兵を以て沈着之に應じ賊に多大の損害を與へて潰走せしめたり爾後堤川附近守備隊に任ずるや十月六日約四百の暴徒寧越守備隊の寡兵なるに乘じ之を圍むや勇戰健鬪其十六を殪し之を擊攘せり以上の行動は沈着勇敢にして暴徒討伐の功亦大なりと認む依て賞詞を與ふ

舊江陵守備步兵第五十聯隊第十一中隊 陸軍步兵軍曹 樋口政義

右は本年八月以來江原道江陵守備隊に屬し屢々附近各地の暴徒討伐に從事し就中十月二日旗隣面縣倉里附近に於て僅かに十三名の部下を率て約五百の賊を夜襲し其三十を殪し數十を負傷せしめ十一月六日襄陽に於て十五名の部下を以て約五百の賊を急襲し其四十を殪し多數の賊を負傷せしめ十一月廿八日江陵西北高地に於て約七八百の賊來襲するに際し部下十二名を以て中隊長の率ふる一部隊と策應して之を擊破し其七八十を殪したる如き每に寡少なる兵力を以て猛烈果敢に優勢なる賊を擊破したる成績は拔群なりとす依て賞詞を與ふ

春川守備隊 步兵第五十二聯隊第十二中隊 陸軍步兵少尉 藤江伊三太郎

右は本年八月以來春川守備隊に屬し各地の暴徒討伐に從事し就中十一月六日部下廿九名を以て三馬峙南坂に於て約三百の賊を攻擊し其十一を殪し十一月八日坪村里に於て四五十名の賊を夜襲し其廿五を殪し翌九日監洞附近に於て四五十名の賊を攻擊し其十六を殪し首魁趙甕煥負傷せしめ翌十日魯川里附近に於て多數の賊を攻擊し其十二名を殪し同十二日樂岩里に宿營せる賊を夜襲し其六を殪し十一月十九日陽口の賊約二百を夜襲し其十五を斃し同廿一日全安里にある賊を夜襲し首魁鳳鳴趙基煥以下知名の賊數名を斃したる如きは其計畫機宜に適し動作又勇敢なりと認む依て賞詞を與ふ

其他左の通り暴徒討伐に關し岡崎第十三師團長より各賞詞あり

第五十一聯隊第九中隊　第五十聯隊第十一中隊　第五十二聯隊第十二中隊　第五十一聯隊第十一中隊　第五十二聯隊第五中隊　第五十一聯隊第六中隊　第五十一聯隊第七中隊　第四十七聯隊第八中隊　第五十一聯隊湯淺少尉　第五十二聯隊方神軍曹　第五十聯隊志賀少尉

賊の宿營地を包圍す

永春方面に出張中の李警視よりの報告によれば匪徒李漢承は部下約四十名を率ひ忠州郡德山面道基に集合せるを偵知し十六日之を攻擊せしに賊は既に逃走せり時既に日沒後にして追擊不利なりしより一旦戰を中止せしが此戰鬪により賊一名を生擒せり而して李漢承が部下と共に月岳山に宿營せるを發見し十七日午前三時之を包圍し匪徒三名を殪し首魁李漢承及部下一名を虜にしモーゼル銃五、火繩銃十一、軍刀一其他彈丸及雜品若干を鹵獲せり

祖嶺の攻擊

去る廿二日午前九時高山郡東上面杻嶺に集合中の約三十名の匪徒を攻擊し內四名を殪し火繩銃四個を鹵獲す匪徒は山頂を越え龍潭方面に潰走せり

捕虜を奪還せんとす

去る十九日長水分派所巡查匪徒七名を逮捕し留置中廿一日午後十時頃其の黨與數十名襲來し奪還せんとせしが其際橫山巡查負傷し吉田巡查苦戰中との報に接せしかば早速醫師巡查巡檢を率ひ守備兵は共に出張せり

●關釜連絡船と郵便物 關釜連絡船は過日の暴風波の爲め一時杜絕し爲めに韓國着郵便物は未到着の次第なるが一昨日來漸く恢復したるを以て昨日京仁に於て配達せる郵便物は廿日廿一日分にして今朝配達すべきものは廿二、廿三の兩日分なりといふ

●年賀郵便物數 仁川局に於ては十五日より年賀郵便物を取扱ひ來りたるが今日迄の合計僅かに五千通に過ぎず然るに居留民數約一萬人と假定し一人五枚平均とするも五万枚の郵便物なるべき筈なるを以て今日迄僅かに十分の一の差出あるに過ぎずかくては歲末押迫りて郵便局の繁忙を極むべく從つて郵便物差し立遲延するの恐れあれば今日の中續々差出ありたしとなり

加藤氏の送別會

前宮內府顧問加藤增雄氏の送別會を一昨二十三日午後六時よりソンタク邸に開催せしが出席者は外國領事同宣敎師及統監府內高等官の重もなるものなりしが却々の盛會なりし

●光濟號員の送迎會 既報の如く一昨日午後六時より仁川俱樂部に於て光濟號乘組將校の送迎會を催したるが來會者は百餘名に達し頗る盛會なりき

●統監府員の忘年會 一昨日午後七時より曾禰副統監、鶴原長官を始め高等官判任官及び雇等約百六十名の府員は花月樓に於て忘年會を開催せしが發起人井上文司氏一場の挨拶を爲し午後十時半散會せしが近來稀なる盛會なりしと

●小松書記官の歸任 小松書記官には昨夜九時南大門着の列車にて歸任されし筈也

●頴原會頭歸仁期 仁川商業會議所會頭頴原氏は過日大連へ出張中なりしが廿五六日頃歸仁すべしといふ

●豐永敎授 農林學校敎授豐永眞里氏は昨日水原より入京巴城館に投宿せり

●宮中參內者 一昨日昌德宮に參內せしは李軍相、趙法相、閔宮內大臣、鄭侍從武官、李侍從院典爵、李侍從院侍從外七十七名なりしが內男六十五人女十二名なり又德壽宮は義親王、趙承寧府總官、朴承寧府副總官を重なるものとして計百〇一人なりしが內男五十六人女四十五名なり

仁川 廣安號の除名

仁川驛員と結托せる惡運送屋

仁川驛員の不埓と題し本社が峻嚴なる筆を呵したるは讀者の知る所の如し其結果仁川運送業組合に於ては同組合員廣安號(店主橋本)が仁川驛貨物係と結托して不正の所爲ありたる爲め今回同組合より除名されたり玆に於て吾人は吾人の筆尖の空しからざりしを誇るものなり

仁川沖の沈沒 汽船第二乾坤丸

仁川協同組取扱ひの神戶乾新兵衛所有の第二乾坤丸は去日紀州勝浦より材木を搭載し仁川に入港揚陸し去る廿日未明に仁川出帆門司に向け歸航中仁川を去る四十哩の沖合にてブレトン列島附近於斉島の手前を通行中同日午後七時頃折柄吹き荒める大暴風の爲め船体の操縱自由ならざるに至り遂に淺瀨に擱坐し船体著しく傾斜し浸水甚だしく遂に沈沒の非運に立至りたり、船員四十二名、旅客一名は無事朝鮮船を雇ひて昨日仁川に歸りたり而して該船沈沒の事の今日迄不明なりしは交通不便の爲め之れを仁川に通報し能はざりしによるものにて昨朝右船員が突然上陸したるによりて初めて知るを得たる次第なりと、尙積荷なかりし爲め船体の外には損害なく船体は未だ引上げの見込付かずといふ船長は深井清といひ同人は機關長と共に右四十二名の船員と別朝鮮船にて仁川に向ひたるも未だ着仁せざるが爲め協同組よりはランチを仕立て搜索に向はしめたりと

●漢城病院醫員の昇級 漢城病院醫員藤原勝男、池田秀雄、石川淳夫、藥局長渡邊悅之助其他藥劑醫員廿五名は何れも昨日昇給の沙汰を受けたり

▲治外法權▼

目賀田君にならば贊成するが鶴原にならば御免蒙るとは先立て目賀田顧問當地引揚の際某民團が顧問在職中の勞を謝するの印として紀念品を贈るが爲めに開いた相談會に於て理事者の洩した言葉である▲何が故に目賀田君の爲の相談に鶴原君が引合に出たかは一寸解し兼ぬるところであるが苟も民團理事者の口から斯の如き言を放たるゝ定吉君は下の都々逸を味ふの必要がある曰く「サキガ丸く出りや私しや角にや出はせぬ窓の月」▲有体に曰へば目賀田君は年に似合はず圭角の有つたあまり人付のよくない人である、彼は瀟洒淡泊にヤンキー流の短氣を混和した當世に向かぬ人である併し彼は正直であつて又親切である▲彼が在職中公私の用件を以て彼を煩した居留民は少くない、其少くない中には隨分劍突を喰はされ又叱飛ばされたものも澤山ありと雖し彼に就て腹を立てたものは一人も無い▲彼は如何なる場合と雖も決して居留民に門前拂を喰はした事はない、亦如何なる問題に就て相談を受けても之に解答を與へぬと云ふ事はない、尤も彼とて何も彼も居留民の注文を聽たと云ふではないが一口に云へば何事によらず相談を受けた事には必ず目鼻を附けた之が乃ち彼の正直で又親切なる所以であつて又居留民が彼の人物を買つて遣つた所以である▲亦言語同斷で鶴原君はドウデあるかと云へば之は顧みて鶴原君は公僕であつてゝんで比者にはならぬ▲全体役人は公僕である公僕にして公衆に對し不正直不親切なるは以ての外である誰でも紀念品が貰へると思ふは夫は大なる心得違である

●小學校年末終業 京城小學校及び幼稚園にては昨日を以て本年の終業式を擧行し … 三浦勇、矢野國太郎、石川伊之助の三訓導は職務勤勉の爲め月手當十五圓に昇給せらる

●京都府立商業學校生徒の渡韓 京都府立商業學 … 引率の下に見學の爲め來韓せしが再昨日釜山より入京京城金旅館に投宿の由尙本日は龍山 … 平壤地方へ赴き夫れより歸校すべしといふ

園にては昨日を以て本年の終業式を擧行し

[illegible]

●商業學校生徒の渡韓 京都府立商業學校生徒十八名は[illegible]校教諭[illegible]、小管の兩氏山より入京原金旅館に投宿の由尙本日は[illegible]平壤地方へ赴き夫れより歸校すべしといふ

●京城小學校訓導の昇級 京城小學校訓導[illegible]職務勤勉の爲め月手當十五圓に昇給せらる



玉と船員(上)

海上の魔窟……女を玉に船員を釣り込む……船員は皆な泥棒

船員が船積荷物を窃取するのや、陸上の奸商と結托して種々の惡事を働いて居る事は誰しも認めて居る所である而して彼船員の多くは姓名下劣にして土方や工夫等の手合と同樣である事も今更云ふ迄もあるまい、記者は過日仁川某酒樓に於て同樓女將に就て船員と賣春婦てふ事に就て面白い話を聽いたから女將の話を記載する事とした

▲妾達の身上 は御存の通り年に二三度は必ず玉を仕込みに内地へ歸ります、それで京釜鐵道から連絡船で歸りますれば旅費も嵩みますし又外に一の目的がありまして其都合上 川から大阪なり馬關なりまで船に乗りますはい歸ります時も同樣です、それで内地に參りまして玉(賣春婦)を仕入れて連れて歸ります時に船に乗りますが此船員は異に妾共の杖とも柱ともなるのでムいます、何せつて玉を五六人も連れて居りますときには色々厄介な事がありますし女共が朝鮮に來ましてからの働きに就きまして船員の方から色々な惡い事を吹き込まれますと此方の損ですから成丈船員の氣嫌を取り出來る丈親切に取扱つて戴くのでムいますハイ女共と船員の關係ですか、それはこうなのです

▲船員は常得意 妾等の稼業は生物を相手に金を出して商賣をして居るのですから一旦女に休まれゝばそれ丈損な譯ですからモー大阪なり馬關なりで仕入れますれば其日からでも役に立たせます、而し此れは多く玉に限りますなにあなた一枚藝者でもまん二枚藝者やろの邊の淫賣婦にしようといふざらそんな事が無いとも限りませぬ、船の中で船員に賣付けるのは一番結構ですよ、なぜつてそうでしようあの船員なんといふものは月給は少ないが餘得が多いです全で荷物泥棒渡世の樣なものでき

▲船員が金遣いが荒い それで妾共のた客樣の内で一晩に三十兩の散財をなさる方は誠に尠ないですが船員となりますとチャンと事務長さんが會計で五六人參ますそして飲む食ふ唄ふの大散財を致しますから俗商が嵩みます、大低一航海で三四十圓は使はれますそれが三四隻の船員を得意に至して居りますれば、ケ月五百兩の金はあがりますこれがつまり玉を仕入れて歸りますときに船員と懇意になります譯なのです、ですから船ではマー女が船員と妙な關係を付けましても之れが緣となりまして上陸しました時に散財に來て與れますから默つて居りますいや却つて關係を付けさせやうとしますのです

京城の火難餘聞

本社附近の出火に就ては前號に詳記せしが尙は其の餘聞を記さんに

△ビールを噛む 既に鎮火せんとする頃に當つて火元大昌洋行よりの仕向にやあらん路傍に卓子を据ゑビール瓶五六本とビスケット一皿をこれに置きて消防手連入に饗せり此の日は氷點以下二十度華氏零度以下四度といふ冷氣のことゝてビールはコップに注げば直ちに凍りて氷塊をなすことゝて此れを噛むほどの馬鹿勇氣あるものなくビスケットは監視の韓人が喰ひ盡したるもビールは二三瓶の口を切しだけにて仕舞れたり

▲淫賣婦の狼狽 此の附近に日の出亭と稱する小料理屋あり此も其邊まで延燒するの氣遣ひなしとは吾人の公平なる觀察なるが同亭に於ては周章甚しく主婦が泣く〳〵差圖してビールの空瓶まで他所へ持ち運ばしめたるが猶は滑稽なりしは火事よ〳〵と呼ぶ聲と共に同亭の裏口より淫賣婦とも思しきもの四名が寢亂れ髪に細帶で身顫ひなしつゝ飛び出づる是れに引き續いて韓人と支那人と土方風の男二名とが駈け出したが韓人は冠を着くるの暇なかりしか但しは狼狽せしものか手に提げしまゝ悄然として出で行きたり

▲屋上に投げ出す 火事場泥棒は淸國や韓國に於ては當然のことにて火事といへば家財物品は燒けるか盗まるゝかこの二つの内を免かれざれば其の避難の方法もまた工風せられて隣家の韓人は多くもあらぬ衣類其他を悉く屋上に運びあげ簟笥を以て飛び來る火の子を打ち消しつゝあり是れぞ内地にては見得べからざる圖なるべし

▲繩を暖むる 寒さは寒し繩も凍つて居れば敢て咎むるほどのことはなけれど文那の消防は遲く來つて先づ焚火を始め繩を暖めてさて夫れより消防に取掛るといふ呑氣さ加減は有繁に支那人氣質を示したるものといふべし

●居留地昨今の況状 本年も最早餘すこと旬日を出す季は臘に迫り人々は目出度新玉の春を迎ふるに汲々たれど本夏よりの暴徒は今に鎭定せず所在劫掠を逞ふし之れが爲め商況は一般に沈淪し金融は必迫に必迫を重ね韓國向の貿路は茲に杜絶し各商店は不景氣を嘆じ其聲は滿都に充滿し貿易商は他に轉業するの巳を得ざるに至れり之れ誰れの罪なるや讀者は巳に了知せらるゝ所なるべし此に聊か居留地に於ける昨今の狀況を記せんに年を迎ふるに第一必要なる餅搗は昨今ポツ〳〵其音を聞くも未だ餘日ある爲か師走らしくなきが如く何となく淋しき音に聞へ各商店は不景氣の景氣付けといふ有樣にて景品付大賣出し又は一割引大賣出し等をなし居れるも之れに釣り込まれる購買客も例年に比し餘程少なきが如く店頭客足絶へずと云ふ模樣は一として無く唯だ店員が悄然欠伸して花客の來るを待つあるのみにて何れの店も寂れ果て居る樣に感せられ仕入洋服店の如きは時候柄マントの如き洋服店に仕立させるより割安の爲め多少賣れ行きあるも之れとて知れたる數なれば好況とは云はれず新炭の如き本場が暴徒猖獗地のことゝて出荷殆んど皆無にこれが爲め價格は例年より三四割の騰貴を見るに至り日本より輸入を仰ぐにあらざれば遂に此冬期を越す能はざるの狀態にあて細民の困難は實に一方ならず此の如き居留地の不振は例年に見ざる所なるが之れ一として暴徒のお蔭ならざるはなし而して不景氣知らず顔なるは料理屋と遊廓なるが此は官人の忘年會や各府縣人の忘年會等頻々たるにあり遊廓は此等會のお流れ又は不景氣の白暴遊び多きに基くが如し兎に角居留地昨今は不景氣の絶頂にあるものといふべきなり

●道路の危險 此數日來の寒氣の爲め道路は一般に凍結したる上先日の降雪とに依り一層堅固に凍結したれば道路面は恰かも鏡を磨きたる如くに滑かになりたるより歩行の困難一方ならずウッカリ歩かんか忽ち顚倒するに至る之れが爲め毎日顚落するもの其數を知らず前日曜日の如き本町に於て或る若き婦人が顚落したるに後方より來りし四五名の我兵士は之を見て面白半分に萬歳〳〵と聲を發したるにぞ婦人は之れが爲めに時ならぬ紅潮を注ぎ狼狽して駈け出せしに又々顚倒したるにぞ兵士は益々面白がり後より萬歳〳〵と付き行くに婦人は益々焦り出すにぞ益々顚倒し僅かの所に於て三回も顚倒し遂に或る家に駈け込みたることありしが實に危險千萬の道路なりといふべし尙は道路に水を注ぐもの少からざるが此の如き所爲は十分注意ありたきものなり

●夜警の効果 本町警察署が先き頃來盜難者頻々たるより夜警を始めたるためこゝ兩三日は夜分の盜難に罹るもの減じたる由なるが果して左樣なれば結構の次第なり各員本氣で御警戒肝要〳〵

●女裝して妓生踊場を騒がす といつたら韓國刑法では重罪であるから特筆大書する所であるが我法律に依は雲泥の差あつて危い所を助かつたは當地南署前なる惠谷洞の朴建榮(二十)といへる阿呆者にて家に可なりの財産あるより常に爲すこともなく烟管又ぬて東徘西徊し或時は妓樓に上りて肱銃を見舞はれ或時は蝎甫の嫐を付して手や顔に爪傷を負ひ道がの色男も到る所に味噌をつけたるより爰に當人相應の妙案を策し去る二十一日女裝して團成社なる妓生の踊場に入り込み豫て顔知れる妓生の誰彼を捉ねて喃々戀愛の講義を爲しけるを早くも見附けたる同社の取締役が巳れ不屆至極な野郎と引つ捕へて南署に連れ行きたるが我警法によれば違警罪に過ぎざるを以て說諭の上放免せられたり

●太い尼ちよ 長谷川町飲食店醉月事池田峯吉方酌婦山口縣玖珂郡鳥戸村百十八番地平民東堅テイ(二十)は大和町に住みし際親しくせし白垣ミワなる者に向ひ自分の父が郷里に於て病氣に罹り危篤なりとの急報ありたるも着るべき衣裳なきゆへ仁川の伯母なる中本淺野の元まで行く間衣服を貸し呉れよと白垣ミワより横縞米澤羽織一枚縦縞銘仙の袷一枚白足袋一足を借りたる上仁川に至らば國元より送金しある筈につき同所より直に衣服を小包にて返すとて小包料として三十錢衣服代とも合せて二十七圓七十三錢分を借り之を着用してヤレ嬉しやと云つたかドゥだか其儘行衛を晦ましたのは本年二月二十日のことなりしが其後テイは仁川の伯母アサノ方に至り兼て情を通し居たる大塚吾次郎なる者と夫婦氣取りで面白可笑しく浮世を茶かして樂み居りしを白垣ミワが聞き早速衣服取戻しの談判をなせしもテイは衣服は既に情夫の吾次郎さんが返戻すとて京城に持ち行きたりそうして私しは吾さんとは最早緣を切つて今は何の關係なしと嘘八百を並べ立てゝ返さざるよりミワも遂に我慢しきれず一昨日其筋へ詐僞取財の訴を起したりと太い尼ちよといふべし

●三鈴落籍さる 新町大桝屋には多少の名を賣つたれど通人樣方には一向名も知られなかつた同樓の抱へ三鈴事橋本まつと云ふ女郎は兼て血道を揚げて通ひ居りし鐵道のれ役人某に落籍されることゝなり一昨日目出度廢業札を返納して奥樣然として長火鉢の向に座る身分となりたるはエライ〳〵

●違刑罪一束 京城本町五丁目五十七番戸漬物商山口縣平民大上友太郎(六十)は去る廿二日午後五時自宅前街路に塵芥散在して不潔なるにも拘らず掃除を怠りしにより京城壽町一丁目十番地居留料理商大分縣平民井門条太郎(六十)は同上により何れも科料三十錢、京城本町五丁目酒小賣商山口縣平民酒井政平(四十)は同廿二日自宅前街路に荷車二輛を配列し置きたるため同町大上商會大上友太郎(六十)は同上により何れも科料金二十錢に處せらる

제39호　1907. 12. 25.

一昨朝近火の際は早速御見舞を忝ふし御厚情之段奉深謝候一々參堂御禮可申上筈に候へ共混雜中御尊名伺漏も可有之哉も難計乍失禮以紙上御禮申上候 敬具

京城大漢門前 盛文堂 電話四二六番

謝近火御見舞

大漢門前 遠藤洋服店

一昨朝近火の際は早速御見舞を忝ふし御厚情之段奉深謝候一々參堂御禮可申上筈に候へ共混雜中尊名伺漏も可有之哉も難計乍失禮以紙上御禮申上候 敬具

日韓印刷株式會社 電話三三三番

謝近火御見舞

大漢門前 東雲旅館 電話三二三番

一昨朝近火の際は早速御見舞を辱ふし御厚情之段奉深謝候一々參堂御禮可申上筈に候へ共混雜中尊名伺漏も可有之哉も難計乍失禮以紙上御禮申上候 敬具

京城西小門通り（大漢門横手） シンガー裁縫機械會社 京城支店

會席御料理並に仕出し

西小門内 橫濱亭

歳暮大賣出し

來る十六日より廿五日迄 十日間 現金の御買上げに限り

正札より壹割引

右平素之御厚志に酬ゆる爲め大賣出し仕候間賑々敷御來店御買上げの程奉懇願候

●見切反物や釣り切れは大安賣

●御便宜上與服券は金五圓以上賣出し仕候

君か代足袋 發賣元 京城本町四丁目 山口呉服店 電話九番

京城仲介社

營業科目

土地家屋鑛山山林賃貸ノ仲介
土地家屋鑛山山林測量製圖應依頼
灌漑排水事業設計應依頼
土地整理竝丈量應依頼
鑛山竝未墾地出願代辨
土地家屋證明願賣買手續代辨
外國旅券出願代辨
新聞廣告取次
電話賣買取次
韓國に關する著書雜誌閲覧
韓國に關する非賣出版書閲覧
韓國に關する本社調査書類閲覧
商品依託持約代理店ノ仲介

▲本社は誠實秘密且敏速に業務を營む
▲本社は各方面に渉り各事項を觀査す

明治四十年十二月廿日認可　明治四十年十二月廿五日開業

●建物の賣物 ●鑛山の賣物 ●田畑の賣物 ●宅地の賣物

本社 京城水標町一丁目八番戸假事務所（電話架設中）

支社

東京 東京麹町區三十見町 伊藤豐二郎
大阪 尼ヶ崎宇宮町 由比昌太郎
仁川 仁川新町二丁目 遠藤喜一
釜山 釜山入江町一丁目 加納佐一
木浦 木浦山手通三丁目 谷垣嘉市
鎮南浦 鎮南浦西二丁目 古田稻甫
開城 開城西部 余福又三
水原 水原府南門内 木野村甚太郎
元山
鏡城 鏡城北門内 菅鶴平
右當分の間にて尚各地に設置準備中

福引景品付大賣出

本月十五日より三十一日まで

●下駄 ●足袋 ●麻裏

履物店 薩摩屋 龍山旭橋通り 電話百五十四番

歳暮御進物品荷着

●美術刺繡屛風種々
●洋室用壁掛、卓掛、寢臺掛
●極上豹皮及諸毛皮類
●毛首卷、ショール類
●防寒シャツ類種々

其他御進物用品種々荷着精々廉價販賣仕候

歐米雜貨 美術品 京城本町 四ヶ所洋物店 電話三二一

新築落成移轉廣告

龍山 佐藤病院 電話一〇三番

本院分科擔任左の如し

外科部（一般外科皮膚病梅毒眼耳科） 主任院長 佐藤峰太郎　助手 力武惠吉
同内科部（一般内科小兒科産科婦人科） 副院長 百合野寅松　助手 榎本熊次郎
同藥劑部 主劑師 槇喜市
會計部 主任 伊藤覺太郎
助産婦看護婦長 産婆看護婦 生田綾子

日韓病院

一般患者之依頼に應ず

京城新王城大漢門前

院長 橋本三男
醫員 吉田定見
同 韓國軍醫 蔡永錫
藥劑師 濱口源太郎
會計 井口平治
隔日出張 龍山青木病院長 青木清六
入院隨意

〇〇美人寫眞

十枚二十錢送料二錢

あわれ世の風流多情の才子佳人よ正月の樂みこして此珍々無類の妙品を是非一度粹者の友にもこめ給へ

申込先着百五十名に限り珍請繪葉書一枚進呈

東京小石川新小川町 旭堂
龍山榮町 旭堂出張所

福引券進呈

歳暮大賣出し

○一等景品 金露 五樽
○二等景品 トランクカバン 一個 四十圓
○三等景品 三越呉服券 二十圓
○四等景品 ホワイトシャツ 三組
○五等景品 キット皮靴 一足
○六等景品 婦人用絹張洋傘 一本
○七等景品 商人外套 一着
○八等景品 舶來手風琴 一個
○九等景品 上等折カバン 一個
○十等景品 机 一脚
○三十等景品 男持洋傘 一本
○五十等景品 中折帽子 一個
○百等景品 大手提金庫 一個

以下略之

外に副景品として弊店電話番號に當籤の御方には二枚續き白毛布一枚進呈仕候

●例年之通り來る十五日より三十日迄
●金壹圓毎に福引券一葉御進呈可仕候
●今回は特に大強勉一本も空籤無之候
●籤引一月五日新聞社員立會の上擧行

京城本町三丁目（電話百十五番）

和洋雜貨商 平田商店

米韓電氣會社 電車（線區域・賃金）改正

新年一月一日以後は從來の切符を全廢し乗車賃は凡て現金にて一區金五錢宛受持車掌へ御拂渡被下度候

龍山線 鐘路より京仁鐵道交叉點迄 一區
京仁鐵道交叉點より龍山迄 一區
幹線 東大門より西大門迄 一區
麻浦線 西大門より孔德里迄 一區
孔德里より麻浦迄 一區
東門外線 東大門より清涼里迄 一區

既に御買求の切符は新年一月三十一日迄の内鐘路本社に於て何時にても買戻可致候若一月一日以後尚乘車賃として御使用の場合は一區ニ付貳枚宛申受候事

一區ニ付 金五錢

株式會社 第一銀行京城支店

本店 東京市日本橋區兜町

内地支店及出張所 大阪、京都、横濱、神戸、名古屋、四日市、下關、兵庫、伏見、大阪西區、東京新大阪町

韓國支店及出張所 仁川、釜山、元山、鎮南浦、木浦、群山、平壤、大邱、開城、城津、咸興、馬山

清國出張所 安東縣

總支配人 市原盛宏
副支配人 國庫部長 竹山太郎
副支配人 調査部長 三島純平
營業部長 市村雄次

電話番號 營業部 當用 一番 同 二番 營業部 三番 國庫部 六一番 用度係 六二番 分拆所 六三番

株式會社 十八銀行京城支店

銀行一般業務精々御便利に取扱可申候

資本金 參百萬圓
積立及繰越金 七拾貳萬圓

京城南大門通（電話四二〇）

本店 長崎市築町

支店出張所 韓國 京城、仁川、釜山、木浦、群山、元山、龍山 日本 大阪、熊本、佐世保、嚴原、五島、壹岐

其他日本韓國樞要地及露領浦鹽に爲替取引先あり

貯蓄預金 一口壹錢以上何程にても御預り申候（利息日歩壹錢四厘）

長崎貯蓄銀行代理店（十八銀行京城支店）

株式會社 第五十八銀行京城支店

資本金 三百万圓

銀行一般の業務精々御便利に御取扱可申候

本店 大阪市西區北堀江通五丁目
支店 釜山 仁川 平壤 鎮南浦 安東縣

（電話五八番）

爲替取組先

畿內	二十七ヶ所
東山道	十三ヶ所
山陽道	七十五ヶ所
南海道	二十三ヶ所
北海道	五ヶ所
臺灣	二ヶ所
東海道	二十八ヶ所
北陸道	十ヶ所
山陰道	十三ヶ所
西海道	三ヶ所
韓國	九ヶ所
清國	一ヶ所

公債株式 現物賣買

叮嚀、確實、安價に取扱申候間多少不拘御用命之程奉懇願候

龍山町（青木病院前） 質商 梅尾圓八商店